

仙台空港鉄道（株）に対する経営評価委員会意見

項 目	意 見	対象
旅客運輸収入の確保策について	<p>旅客運輸収入確保のためには、仙台空港利用者数に大きく依存せざるを得ない状況ではあるが、鉄道利用者へのサービス及び利便性の向上を目指し、当社として主体的に空港旅客の鉄道利用率向上策を検討するとともに、空港利用者以外の利用促進策も併せて検討し、総合的に鉄道利用者数を増加させることが求められる。</p> <p>このためには、県・JR 東日本(株)・仙台国際空港(株)との四者意見交換会を戦略的会議として位置付け、積極的に活用していくことが望ましい。</p> <p>また、当社の経営を長期的な視野に立ち継続的にP D C Aを行っていくための経営・人事体制を目指すこと。</p> <p>【施策参考例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便数及び車両数の増加、仙台空港及び名取間の折り返し運転等の実施 ・宮城県の魅力や強みを活かした取組・誘致活動の実施 ・空港からの案内表示、目的地までのアクセス情報の掲示 ・当社独自又は他社との連携によるイベント開催 等 	団体
運輸外雑収入の確保策について	<p>これまでの取組を継続しつつ、更なる収入確保策を検討すること。</p> <p>【施策参考例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広告未利用スペースの十分な活用（広告代理店へのインセンティブ等も考慮し利用促進を促すなど、会社独自及び県と連携した積極的な営業活動の展開） ・物販拡充を狙いとする現施設の有効活用 ・東北ゆかりの有名人や観光地等を活用したコラボ企画や関連商品の販売 ・更なる未利用地の発掘と活用 等 	団体
経営健全化方針（素案）に対する意見について	<p>方針（素案）の「3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの県の関与」において、当初から多額の投資を要する計画であったことを踏まえ、どのような要因（世界的景気後退、大震災等）でどれだけ当初の計画と乖離したか等、経営状況のリスクの現状分析を行い記述することが求められる。</p> <p>また、「4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討」及び「5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的対応」において、3で示した現状の経営環境のリスク認識を踏まえた記述とすることが望ましい。</p>	県